

## ●合唱祭に向けて ♭#♪

合唱祭に向け、これから練習を重ねていくと思いますが、音楽科古川先生より、審査の立場からいくつかアドバイスをいただきましたので紹介します。

**キーワードは 自立・協働・創造** あらゆる場面に通じることばです。

(3点にまとめられていることも重要です!…「3」は魔法の数字です。)

### 自立

自分のパートは自分で責任をもって歌うことだと言えます。出来ていないのに人と合わせても不安定なサウンドしか生まれません。まずは自分から主体性をもって個人練習をしてからパート練習です。言い換えればターゲットや古文単語を覚えて友達同士で問題の出し合いです。自分に自信を持つこと。そのためには「出来た」という事実がいります。

### 協働

同じパートの人と協力してそのパートを確立していくことだと言えます。人と協力して何か目標を達成するにはどうしたらいいでしょうか。音楽で自分の役割を果たすには相手を尊重しお互いを認め合い、同じゴールに向かって一緒に向かって行くことです。チームワークを育みましょう。目的は和音、つまり「和」、調和することです。クラスみんなで大学を目指す受験勉強に似ています。

### 創造

同じパート、違うパートの人達で一つの音楽という作品を作っていくことだと言えます。自分と同じ事をしている人、違う声部を歌っている人とそのクラスにしか表現できないサウンドを作り上げていくことです。これはこの先、皆さんが大人になった時に自分とは違う他者と何か新しいものを作って行く時に必要です。音楽作品は偶然にはできません。何らかの意図があつて成立します。目には見えない音をクラスみんなで作り上げることができれば勉強と一緒に、結果は自然についてくるのではないのでしょうか。

## 【パート練習 黄金の書】 保存版!

- ① まずは何より一人ひとりが声を出す
- ② 歌い出しは命
- ③ 終わりの一秒まで気を抜かない
- ④ 曲の山場を最大限アピールする
- ⑤ クレッシェンドを十分表現する
- ⑥ 伸ばす音は十分伸ばす→安定感
- ⑦ 口先で歌わない
- ⑧ 音の響きを下げない
- ⑨ 男性がしっかりすると安定する
- ⑩ 思いは必ず人に伝わる!!

歌っている自分たちが一つになろうとすれば聴いている人にも感動を与えられる

## ●古典芸能「落語」を鑑賞して（11月9日）

一流 本物に触れる ひとつになって笑う楽しさ 共有する喜び

### 【一番印象に残ったこと 感想の一部紹介】

- ・ みんなと同じタイミングで笑い合ったことが印象的でした。
- ・ さん喬さんのお話で、最近の若い世代の言葉の使い方やスカート、スマホに対する風刺があり、何だか自分に当てはまるような気がして考えさせられました。
- ・ 麺をすする音、鼻をかむ音、小さい子の泣き声など、日常で耳にするさまざまな音を自らの声で表現し演じ分けていた事。大きな会場に響き渡るその迫力に圧倒された。
- ・ 落語というただ話すだけのイメージでしたが、小道具や所作、衣装までひとつひとつに意味があり、そのほとんどが昔から受け継いでいるもので「古典」の意味そのものだなと思いました。
- ・ 数少ない道具でお客さんに情景を想像させる表現力にまず驚かされた。また、お客さんとコミュニケーションをとるような姿勢に対人でのお笑いならではの温かさを感じた。
- ・ 落語にはほんちのきいた話が多く、他の笑いに比べて「知的」な笑いというか面白さがあると今日すごく感じた。
- ・ 人物の切り替えやちょっとした仕草や表情などがどれも洗練されていてプロの技術を肌で感じとることができた。特に桂文三さんの噺は内容を知っていても関係なく笑えて、プロのすごさを感じた。

### 【落語由来のことばの紹介】

- ◆ 「トリ」…最後の出番の人。かつては寄席の最後の出演者が他の落語家のギャラの「取り分」を決めるというシステムがあったようで、そこから、「最後」を締めくくるベテランの落語家を「トリ」というようになったそうです。
- ◆ 「ヨイショ」…思い物を持ち上げる時のかけ声だけでなく、「お世辞」や「おだて」などの意味で「ヨイショする」などと使います。登場人物の気持ちだけでなく、お客さんの心持ちを軽く持ち上げるというのもどうやらあるようです。この度の「噺（はなし）」の中、「まくら」にも、たくさん「ヨイショ」がありました。「動物園」で、ライオンの歩き方を主人からほめられすっかりその気になる主人公や、「まくら」で、「東京の高校生」に比べ「聴く態度」をほめられた「舟入生」など……。巧みな「話術」があつてこそその「ヨイショ」です。悪い気はしないものです。

## ●傾聴の「あ・い・う・え・お」を授業でも活かそう。

★授業への「集中」を高める方法のひとつとしてとり入れ、実践してみよう★

相づち・アイコンタクト・うなずき（頷き）・笑顔・オウム返し

・「わかる」から「うなずく」のではなく、「うなずく」から「わかる」ということも実はあるのです。「悲しい」から「泣く」のではなく、「泣く」から余計に「悲しくなる」ということがあるように。★「こころ」を動かすために「身体」を惜しまず使おう★